川から見たまちづくり

建設省河川環境対策官/山田俊郎

「川から見たまちづくり」と対をなす表現が「まちから見た川づくり」である。いずれも河川改修（川づくり）と都市計画（まちづくり）を相互に調整して一体的な良好なものにしようという意味である。

前者は河川工学の観点ないしは河川管理者の立場から都市の側に望むというスタンスであり、後者は都市工学の観点ないしは都市計画者の立場から河川の側に望むというスタンスである。

少し前までは両者が各々の立場に拠るあまり、嚙み合わない点が多かった。特に河川の側においては洪水対応に精一杯であり、中でも都市部にあっては都市化の進展に伴う洪水流出の増大に見舞われ四苦八苦という状態が続いており、河川の諸々の機能の中で治水機能第一に走らざるを得なかったという事情がある。勿論この面での対応が一段落したわけではないが、近年、うるおいのある水辺空間に対するニーズが顕著であることと、都市の側にも川を暗渠にして緑道をつくるといったことや、川沿いや川の上に高速道路や自動車専用道を通すといった一方的なアプローチが反省されてきたことが、両者の立場を近づけてきたと言える。即ち、川を川として、そのオープンスペースとしての価値に立脚し、うるおいのあるまちづくりに活かすという原則が相互の認識になってきている。

こうした中で、清流を回復する、水辺を親しめるものにする、周辺のまち並みを川に表を向けて構築する、沿川の公共アクセスを確保する等の工夫が具体化してきたし、治水とまちづくりが一体となったプロジェクトも生まれてきている。

相互の理解が一層深まれば、「川から」とか「まちから」という言葉使いも、そのうち不自然なものになってくるだろう。